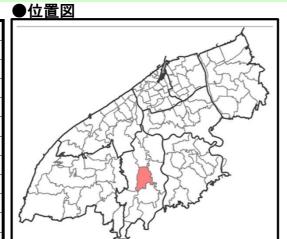
白根小学校区

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

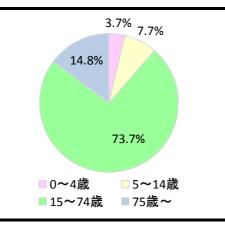
鯵潟 白根水道町 保坂 白根ノ内七軒 鯵潟1丁目 白根日の出町 神屋 小坂 白根古川 小蔵子 白根四ツ興野 七軒 親和町 七軒町 杉菜 十五間 助次右工門組 上下諏訪木 戸頭 能登 白根東町1丁目 能登1・2丁目 白根魚町 平成町



施設 • │	団体					
市役所	f•区役所等	南区役所				
警察∙消防		新潟南警察署/南消防署本署				
消防団		南方面隊 白根分団				
水防倉	庫					
一時避難場所		白根公園、水道公園、諏訪木公園				
広域避難場所		白根総合公園				
主利な	幼稚園・ 保育園	白根カトリック幼稚園/あかね保育園、古川保育園、白根保育園、諏訪木保育 園				
用要 高齢者 施配 福祉施設		白根そよ風の杜、オードヴィー白根、みずき苑				
設慮者	障がい者 福祉施設	あけぼの				

●人口

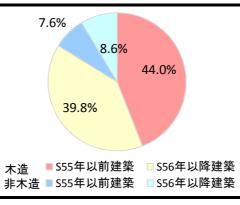
総人口	12,310人	地区の割合	市の割合
0~4歳	452人	3.7%	4.0%
5~14歳	954人	7.7%	8.5%
15~74歳	9,078人	73.7%	74.6%
75歳~	1,826人	14.8%	12.9%
65歳以上人口	3,475人 28.2%		26.0%
世帯数	4,523		
一世帯あたり人口	2.7人	/世帯	2.5人/世帯
人口密度	1,560人	1,108人/km²	
昼間人口	11,881人		
	·		



●建物関連指標

総棟数		7,185棟	地区の割合	市の割合			
+	S55年以前建築	3,163棟	44.0%	44.2%			
木造	S56年以降建築	2,857棟	39.8%	46.7%			
坦	計	6,020棟	83.8%	90.9%			
非	S55年以前建築	548棟	7.6%	3.4%			
木	S56年以降建築	617棟	8.6%	5.7%			
造	計	1,165棟	16.2%	9.1%			
S	56年以降建築物	3,475棟	48.4%	52.4%			
	S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震						

※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名		階				
[ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	(m)	数	地震	津波	洪水	土砂災害
[t]白根小学校	1.3	3	0	_	2階以上	_
[t]白根保育園	1.3	2	0	1	2階以上	_
[t]白根児童センター	0.5	2	0	1	2階以上	_
[t]白根地域生活センター	0.9	2	0	1	2階以上	_
[t]白根高等学校	1.0	2	0	1	2階以上	_
[t]古川保育園	1.2	1	0	1	×	_
[t]白根第一中学校	1.4	4	0	_	2階以上	_
[t]白根カルチャーセンター	1.6	2	0	1	2階以上	_
[t]諏訪木保育園	2.6	2	0	1	2階以上	_

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

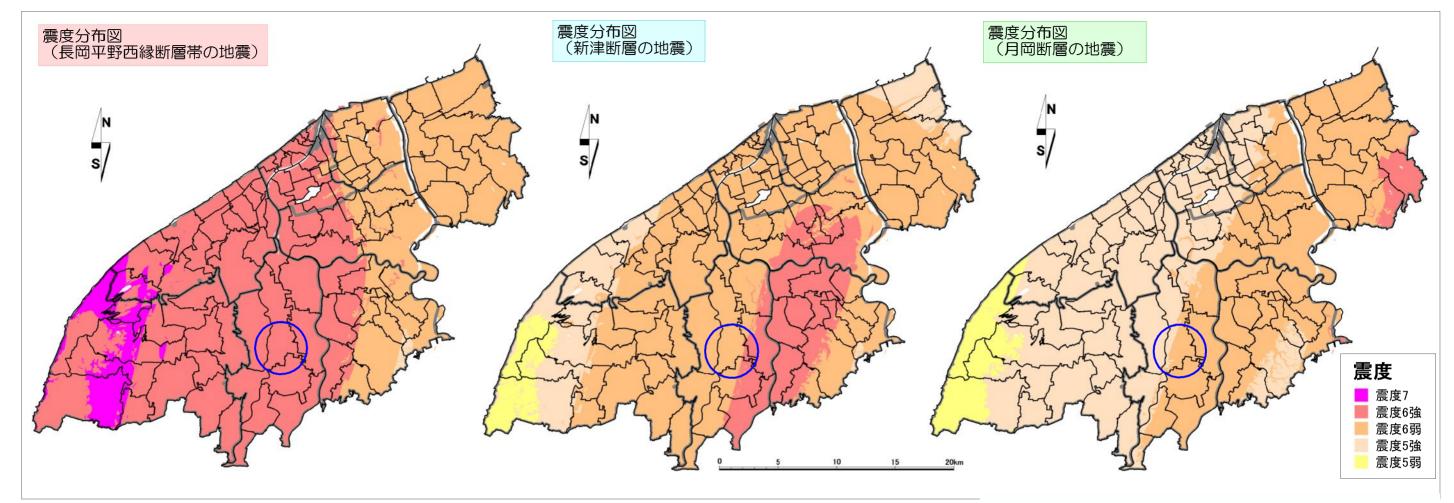
施設名	標高					
[ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	(m)	数	地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]味方小学校	0.6	3	0	_	2階以上	-
[t]味方中学校	1.0	3	0	1	2階以上	1
[ヒ]老人福祉センターいこいの家 楽友荘・南区味方健康センター	1.1	1	0	1	×	1
[t]味方公民館	1.3	1	0	_	×	_
[t]味方体育館·味方地区公民館	1.4	2	0	_	2階以上	_
[t]西白根公民館	1.4	1	0		×	1
[t]臼井保育園	2.4	1	0	_	×	_
[t]小林小学校	2.3	3	0	1	2階以上	
[ヒ]小林地域生活センター	2.5	2	0		2階以上	1
[t]白根学習館	2.5	2	0	1	2階以上	l
避難の可否:「一」はそれぞれの災害で避難の対	象外、津	波で	「× Iの施設は、)	津波避難の対象が	かつ津波浸水の	危険性がある。

●災害危険性の評価

ᅶᄔ	地区の広い範囲に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化
津型	の可能性がある。
波	地区の広い範囲に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。 津波の浸水は想定されていない。

信濃川下流の洪水、中ノロ川の洪水及び鷲ノ木大通川・西大通川流域の洪水によって、地 土水 沙害 区の広い範囲で浸水の可能性がある。

様式2 震度分布図 白根小学校区



	長岡平野		
	西緣断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模:	7.46	6.45	6.76
モーメント	(気象庁マグニチュード	(気象庁マグニチュード	(気象庁マグニチュード
マグニチュード	7.9に相当)	6.7に相当)	7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年	明確な活動性は明らかになっていない。	平均活動間隔 7,500 年以上
	断層の活動性 3m/千年程度	月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	断層の活動性 0.4m/千年程度

※(参考)国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成27年1月1日) 及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。 【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

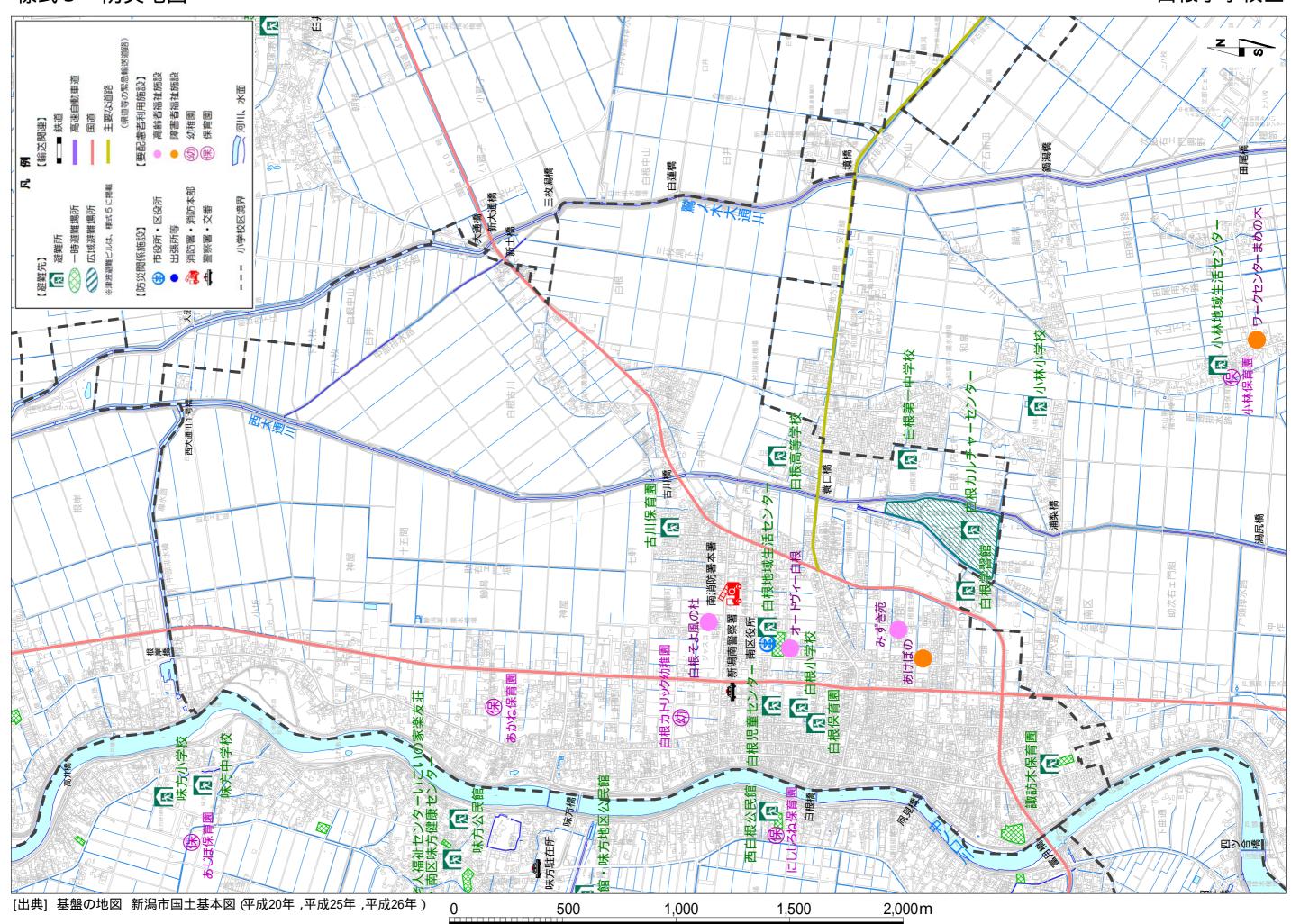
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震 発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は 変わることがあります。

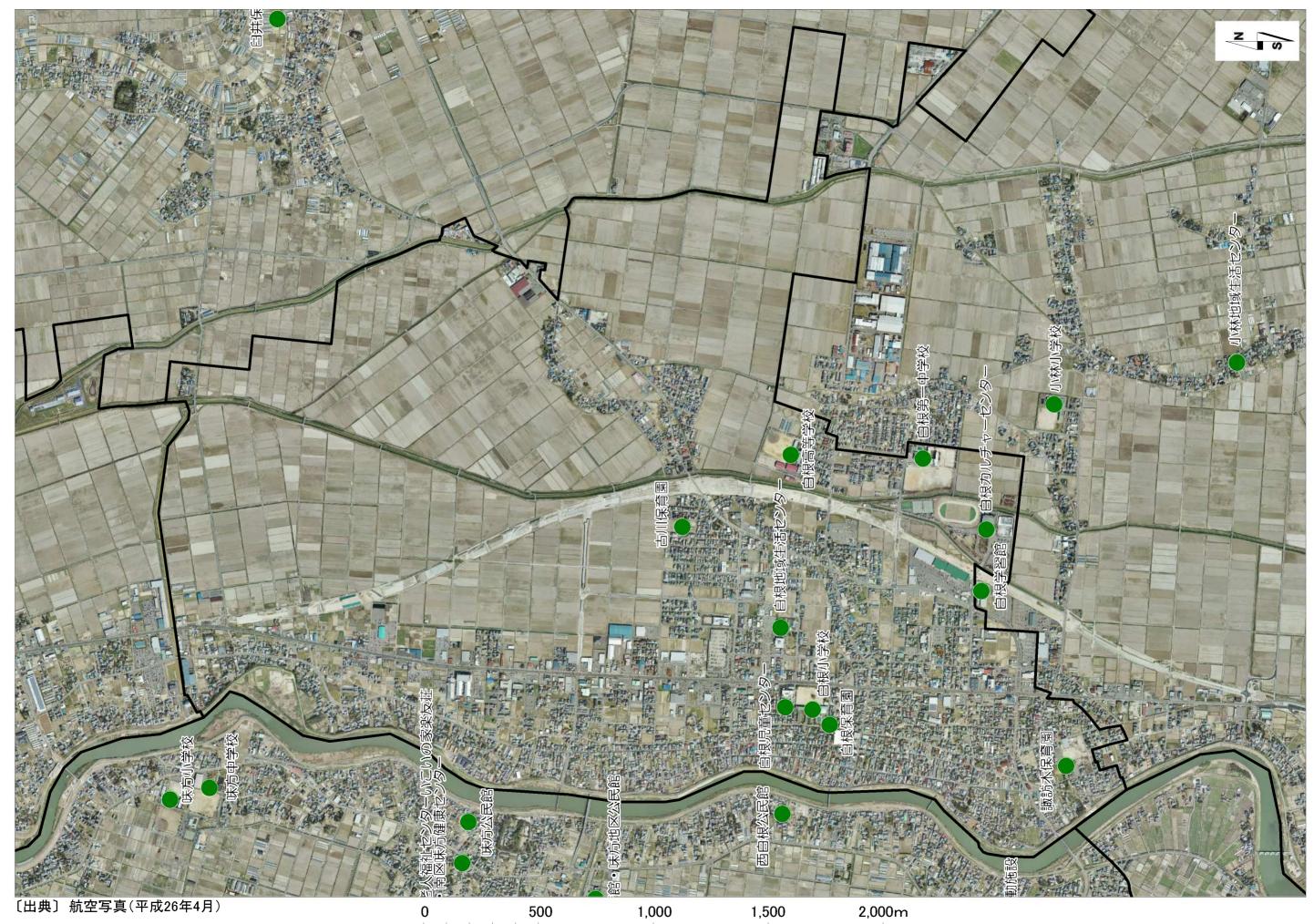
<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

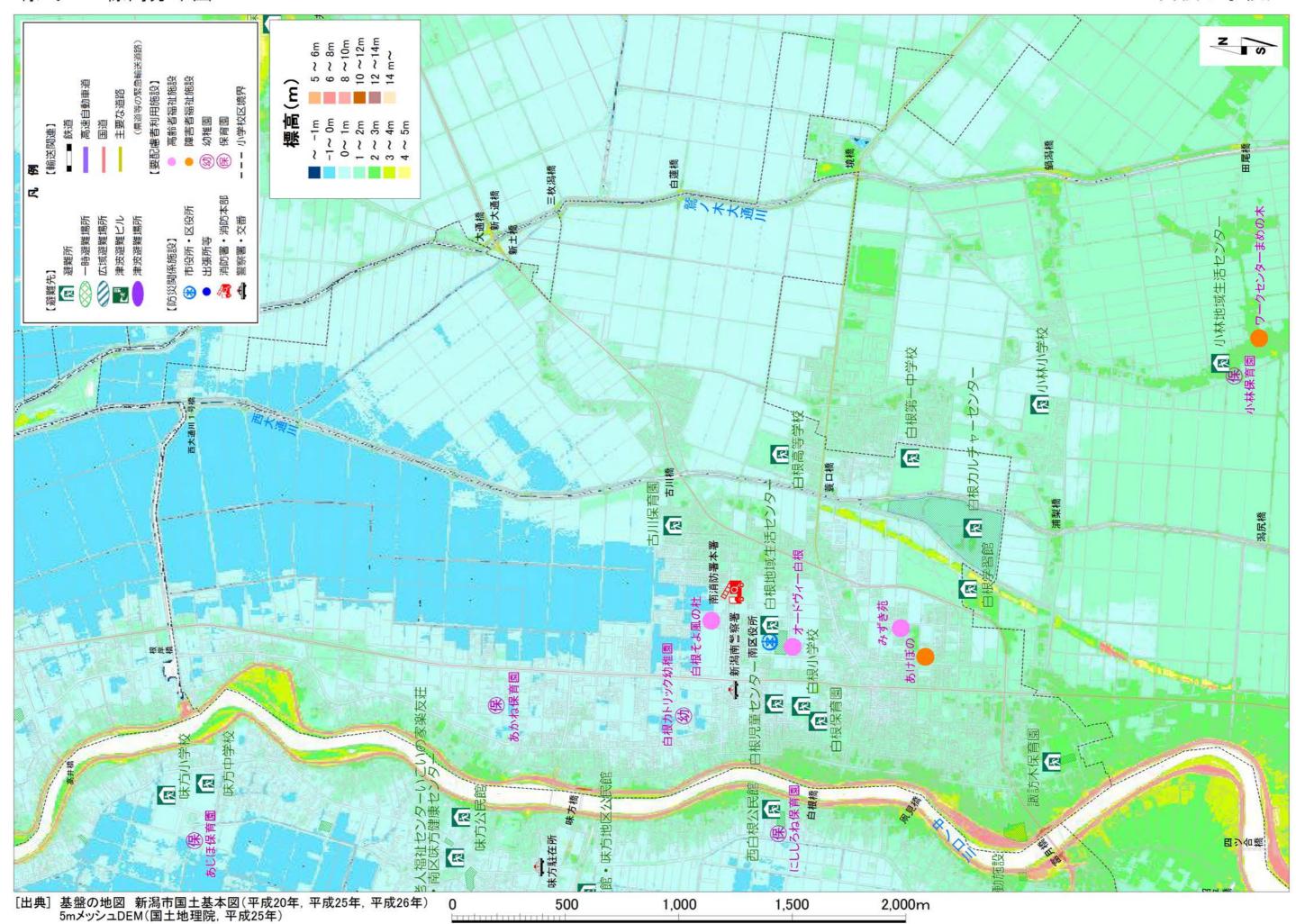
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



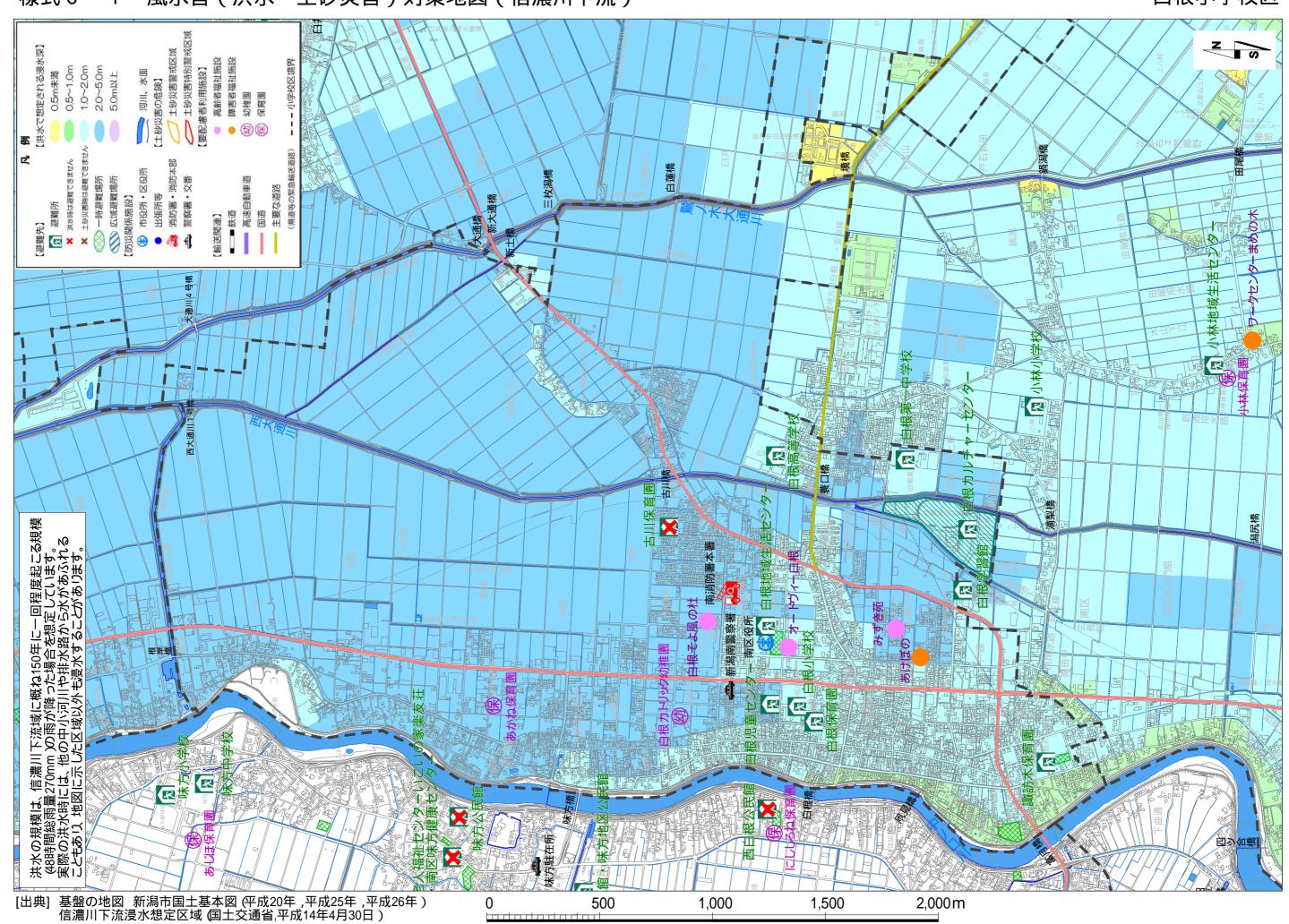
◆ は、断層の傾きを示しています。



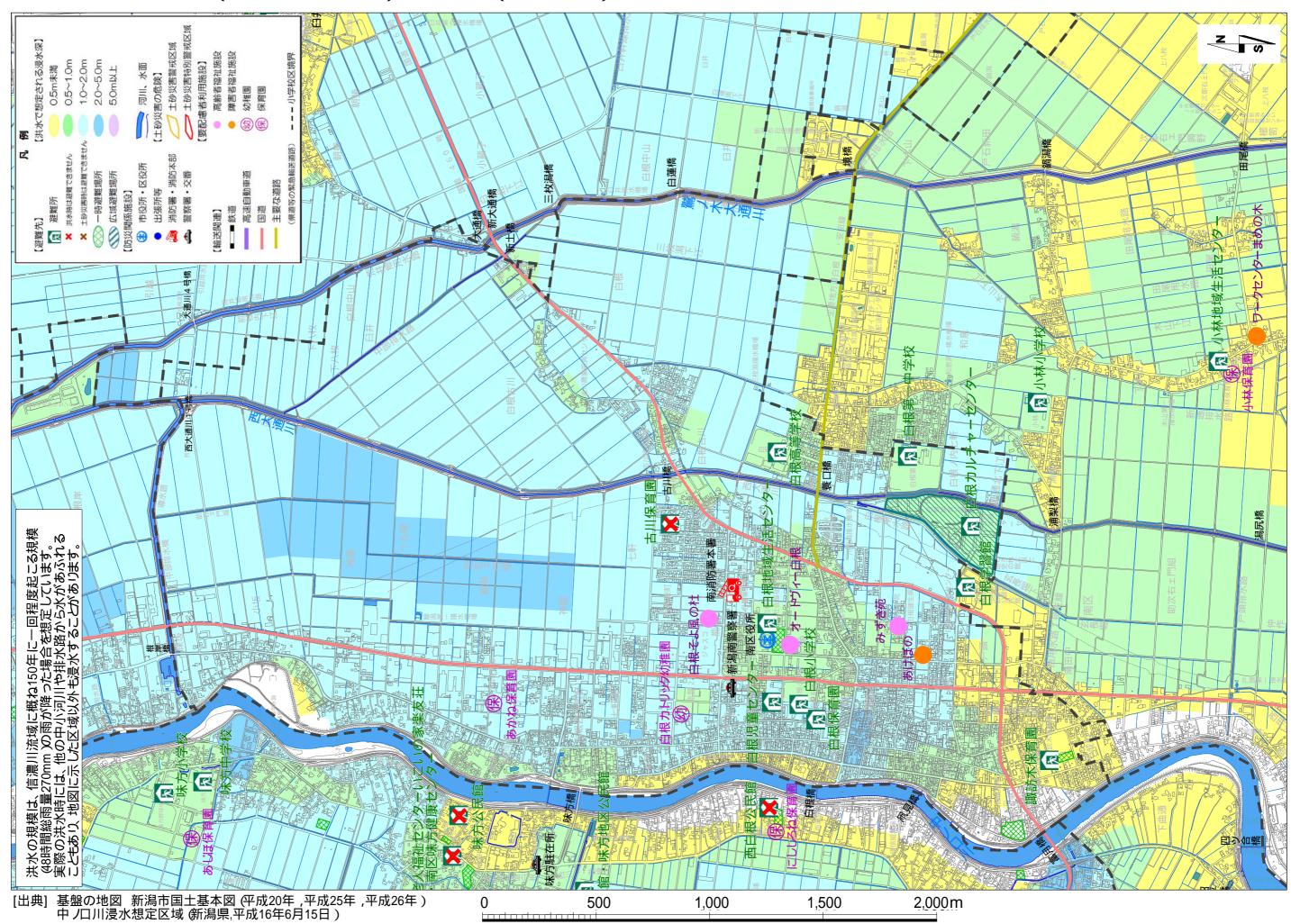




様式6-1 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(信濃川下流)



様式6-2 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(中ノ口川)



様式6-3 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(鷲ノ木大通川・西大通川)

